

JR東海労ニュース

No. 712

2005年7月5日

JR東海労働組合

「再教育」とは、JR西日本の 「日勤教育」と同じだ！

6月30日、本部は定期大会での決定を受けて、業務委員会において安全対策の確立を強く主張した。本社は、JR西日本の「日勤教育」のようないじめはないとさかんに内外に言明している。しかし、「再教育」はやっている。いわく、「再教育は事故等を発生させた乗務員に対して必要な知識・技能を一定レベル以上に習得させるために実施するものであり、乗務に必要な一定のレベルに達していない以上、乗務を停止したうえで必要な教育を行うことは、安全・安定輸送のために極めて重要なことと考える。」と。「再教育」の内実は、反省文の強要であり、恣意的な試験の繰り返しである。90点とらないと合格しない試験などあるのか。合格させないための試験なのだ。教育なんて何もやっていない。

以下、業務委員会から。

組合 JR西日本と同じ懲罰的な再教育はやめろ。そもそも一定のレベルとは何なのか。

会社 再教育は必要である。

組合 会社の判断はどのようになっているのか。

会社 一定の基準はある。

組合 それを明らかにすべきだ。

会社 明らかにする考えはない。

組合 JR西日本は現場長の判断から専門的な立場の社員が判断するようにした。

福知山線事故以降も変更していない。

会社 変更しない。

なんという傲慢な会社か。「一定のレベル」とは何か明らかにすることもしない。長期に乗務を降ろされて日勤・車掌限定にされている仲間がいる。配転させられた仲間がいる。退職した仲間がいる。他労組でもやむなく退職した人や病気になった人もいる。全ての乗務員の皆さん！声をあげよう！ユニオンも「再教育の過程において不適切な対応もあるのは事実である。」と言っているではないか！会社の傲慢さを支えているのは、ユニオンだ。

教育なき「再教育」は、やめよ！